【報告】

「にしのおもて未来ワークショップ」開催報告

――鹿児島県西之表市(種子島)における未来ワークショップ

NPO 法人地域持続研究所主任研究員 千葉大学大学院社会科学院特別研究員 宮﨑 文彦

「多世代参加型ストックマネジメント手法の普及を通じた地方自治体での持続可能性の確保」(Open Project on Stock Sustainability Management: OPoSSuM)は、平成26 (2014)年度に科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター(RISTEX)の「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域に採択された研究プロジェクトであるが、これまでプロジェクトの協力自治体である千葉県市原市、八千代市、館山市のそれぞれで未来ワークショップを開催してきた。その後2017年2月にNPO法人地域持続研究所(理事長:倉阪秀史)を発足させ、千葉県松戸市における「まつど未来ワークショップ」(2017年10月)などを実施してきた。そのほか、静岡県における「未来シミュレータで見る静岡県の未来」(2017年2月)や、奈良県における「2060年に奈良市の再生可能エネルギー自給率100%を目指す未来ワークショップ」など、県外でも開催してきたが、2018年8月29日には鹿児島県の西之表市(種子島)にて、「にしのおもて未来ワークショップ」を開催した(主催:千葉大学(OPoSSuM研究グループ)、共催:西之表市、後援:西之表市教育委員会、東京大学「プラチナ社会」総括寄付講座、芝浦工業大学)。

未来シミュレーションに基づいた中高生ワークショップ

「未来ワークショップ」については、すでに本誌『公共研究』の特集にて紹介の機会をいただいている¹が、ここで改めて簡単に紹介をしておきたい。

¹ 宮崎文彦 (2018)「未来カルテデータを用いた未来ワークショップ:公共的市民育成のための新しいプログラム|『公共研究』14 巻 1 号 29-36

本ワークショップは、中学生・高校生という「エントリー世代」を対象に、「未来シミュレータ」や社会関係資本把握の結果を伝え、未来市長として、今の市長に政策提言を行うものである。

「未来シミュレータ」は、本プロジェクトにより開発されたもので、国立社会保障・人口問題研究所による人口予測、ならびに 2000 年から 2015 年までの 4回にわたる国勢調査データを用いて、2040 年の当該自治体における人口動態、産業構造、各種資本基盤の手入れなどがどのようになっているかを予測するものである。

ただしこのシミュレータによる予測は、現状の傾向がそのまま続いた場合、このような状況になると予測される、という点が重要である。つまり、何かしらの手立て、政策を実施することによって変えていくことが可能である、ということを予め含んだものである。

そこでこの「未来シミュレータ」を使って、では皆でどのように対処してゆけばよいかを考えましょうというワークショップが「未来ワークショップ」である。

とくに中高生を対象としているには、主に2つの理由がある。ひとつは彼(女)らエントリー世代が2040年に40代になり働き盛りで社会の中核となる世代であるということ、もうひとつは何かしらの社会的立場による利害関係から距離を取ることが出来るため、「未来市長」として市全体のことを考えることができるのではないか、という理由からである。

実際の進め方については、実施自治体の事情に合わせて内容を変更して行っているが、未来シミュレータや社会関係資本把握の結果についてレクチャーを行う「インプット」が前半、それに基づいて未来の「課題」やそれに対する「政策」をグループワークで考え、発表する「アウトプット」が後半ということでは共通している。前半のインプットのプロセスでは、当該自治体の郷土資料館職員による歴史に関するレクチャーや、自治体職員による固有の話題についてのレクチャーが行われる場合もある。

今回の鹿児島県西之表市における「にしのおもて未来ワークショップ」も、午

前中に前半、午後に後半というスケジュールで1日の開催で実施された。

「にしのおもて未来ワークショップ」

にしのおもて未来ワークショップは、2018 (平成 30) 年 8 月 29 日 (水) に、西之表市民会館において開催された。

参加生徒については、事前に市内唯一の中学高校である種子島中学、種子島高校に派遣を依頼、学内での募集に応じてくれた中学生 15 名(当日 1 名欠席)、高校生 22 名の計 37 名である。

当日のタイムテーブルは、表1の通りである。午前中のインプットのプロセスでは、未来シミュレータならびに社会関係資本把握の結果について、研究グループからのレクチャーを行った後、西之表市の職員より西之表市固有の話題についてのレクチャーを行った。「西之表市の産業と観光の現状と展望」については、農林水産業が得意な(修正特化係数(生産額ベース)が全国平均よりも最も高い)産業でありながらも、第1次産業従事者が大幅に減少している現状(昭和55年に比べてほぼ半減)や、観光客の増減とりわけ外国人観光客の増加などについて、「西之表市での移住/定住政策」については、移住相談や情報提供、補助金などの政策的取り組みを、「西之表市の歴史から未来を見つめる」では、全国的にもよく知られている「鉄砲伝来」のほか、明治期の移住者の多さ、多彩な郷土芸能についても紹介がなされた。

昼食と交流を深めるためのレクリエーションを挟んでの午後は、午前中のレクチャーに対する質問に研究者グループからの回答を行った後、生徒たち自身がレクチャーで学んだことをベースに課題や政策を考えるグループワークである。

このアウトプットの時間も、大きく前半と後半に分けられ、前半は「課題」の書き出し、後半はそれに対する「提言」の検討である。「課題」「提言」ともに、まず生徒たちひとりひとりに、ポストイットに次々と思いつくものを書き出してもらう。「課題」の時間では、それらを模造紙の左半分に貼っていき、近い分野(例えば「少子高齢化」や「空家問題」など)ごとに整理をする。その

表 1 「にしのおもて未来ワークショップ」タイムテーブル

タイムテーブル	活動内容	担当者
8:50-9:20	ガイダンス・アイスブレーク	
9:20-10:15	未来シミュレータからみる 2045 年の西 之表市、つながり調査結果	千葉大学・国立環境研 究所・芝浦工業大学
10:25-10:40	西之表市のエネルギー	千葉大学・東京大学
10:40-10:55	西之表市の産業と観光の現状と展望	西之表市経済観光課
10:55-11:10	西之表市での移住/定住政策	西之表市地域支援課
11:10-11:25	西之表市の歴史から未来を見つめる	西之表市社会教育課
11:25-11:35	質問票の書き出し	
11:35-12:40	昼食・レクリエーション	
12:40-13:00	質問への回答	
13:00-13:15	未来市長が直面している課題の書き出 し・模造紙への展開	
13:15-13:30	他のグループの作業を回覧(ジグソー方 式でメンバー入れ替え)	
13:30-13:40	模造紙の課題部分の完成	
13:50-14:30	未来市長から八板市長への提言項目の書 き出し・模造紙への展開・配置の検討	
14:30-14:45	いいねシール	
14:45-15:10	提言発表の準備	
15:10-15:40	未来市長から八板市長への提言発表・意 見交換	
15:40-16:10	修了式・写真撮影	

際、ジグソー法を用いて、生徒たちはそれぞれ別のグループに散らばってもらい、他のグループではどのような課題があげられているかを「偵察」に行く時間を設けている。これにより、課題の共有を図り、より多様な視点を持ってもらい、政策の考案に活かしてもらうようにしている。

休憩をはさんで後半の「提言」では、模造紙の左半分に貼られた「課題」を 見ながら、同じようにひとりひとりにポストイットに書き出してもらい、今度

図1 「にしのおもて未来ワークショップ」提言一覧

者人の交流イベントを行う	薬的者と影響で文化交流	高齢者のつながり 介護医療人材	島外にも今間士の早人順を だす		9>	ラ・サールみたいな選挙校 を作る		学校などによくソアやに等 の名乗を減す	学校の学習に取り入れる	体育大会とかで文化がなく		全国の最大の最業をしたい 人に受け入れ先として宣伝 する	土地、滋具を貸し出して展 、業をはじめやすくする	高格家を呼び込み、生活支 様を行う (国)集で農業をし	1669)		VRを使う3Dで	•	第五地区合同報光 ツアー	和工会会 抱ちなくならない記録 振む 確保	最久島とタイアップした観光、登山等一流れるような coの高速船は必ず様子場接 自	様子島に乗る人々の目的を しっかりと影響し、多かっ た目的を徹底したり、もっ と宣伝したりする	「毎年戦からそいか来せつ」とより下の配着	文化財を作る数額をつく	85048414	文化財の模型をつくり、お		様子島の特産品をもっと全国に宣伝する	様々の人にも分かり サケい職権・バンファット を作成 日本部の着核と外国語の報 核を制に作り組まいのでは
月にI回は、施修物と扱い 人がやれめシイベントを回 ドゴ、こどへ死がなくなる	薬針物の家へホームステイ	地域の人々で協力し、高齢 空を客で高齢者による○○ 者の家をまわる ● 教室、○○仲録	今様士の他料を高くする	会会の会会の日本の日本の 日本・		## 6 \$ # # # # # # # # # # # # # # # # #	小・中学社のへん差徴は	ゲーム報を少なくする	学校などで種子島の伝統な どを体験させ、関係をもた せる	学校の中で行事に取り組む	A \ 2000	土地の指数を安くして損害 をしかすくする	TO学は上になったら人々 は、最高以外の仕事をして は はいけないという機能をし 解 くればいい	広い土地を活かして名で野 菓を育てる地段をたくさん	2 4			明の能な物を指す。 様子島でも他の側のよう	7-42 7-42	様子的をいらいのなどだが 「聖地」として観光的化する	製物選札を活用したップー の実施	概念者に対して島の文化を体験してもらうップーを行う	文化が魅力を利用したイベントの実施	様子島の知名家を上げる	知名家をもっともっと上げ		祖子島の行政価を作る	様子島のアピールできる所 を見つけ、回収する	次級アイテアを社会実験す
原称者のコミュニティをし くってつながりを保証	近所の薬的性と親しくなる		も 自宅で会議を行い、定義的 人 に会議主が技能するように したらよいのではないか	2 会社で成金とから組り収益	\$24625CT	1	・飲育課徒(学校の設備)を もっと良くする。若者の減 りも少なくなる。 毎 個	様や、経営を得上位レベル の選件校にする	様子島の子どもが様子島に ついて学ぶ場を修やす	学校などで様子島の歴史に) Divide ETO	空き地を活用し、大規模員 場会社の設立	様子島内でき割の食べ物を 目格できるよう野菜の輸出 入はやめる	様子島の最存物をブランド キャス	※	SB 34c			**************************************	· 左和 o	おばあちゃををはくほか	\$184.6				(単の単の単)	文,年23,年13)	2女,中1男)	3 女,中2 男,中1男)
施書を集め、地域にから 1ヶ町にIBマスケームや ケートが一方など総称的の 金をしくる	つれは上の人用の支流セン ターを作るのがよいのでは ないか	温齢者のつながりをふわす ための交流会や地域活動を する	今間の末人を着やし職場も 着やす→こどく死(A)人 手不足(A)人	医療系の大学に選挙する息	100 000 000 000 000 000 000 000 000 000	特別な学科をつくる	が国の方をたくさん受け入 物れるために、指字をめっし もっする	経業のかり方を変える。在 だ先生の発表的とはけでなる く、グループになって、自 タの考えを指手に伝える方 法の授業にする事業事業		投票で(or進足)様子島に	•	を名を示の言葉 のの	物類のものを食べる	島の衛士料理を安備に食くいする。	お子を		たりし 様々な伝統について詳しく	#1/12.4.E.7.C.6	5.3人に 様子単についての前などを する (8.8元的け) ●	島の歴史を知るイベントを 様子島の伝統をもっと知っ 行う 。 て男味をもつ	おじいちゃん. んによる. 音程 いをもうける	100とで指子の		1044 1044 1044			15年(旧235,同25,3十つス,十255,十15 2階(南258,南253,中3女,中1男) 3器(由281,第2548,中3女,中1男)	3班(南3岁,南2岁,南2父, 中2文,中14班(南2女3, 中3男,中2女,中1男)	5號 (高3男,高2女2,中3女,中2男,中1男) 6號 (高3女,高2男,高2女2,中3男,中1男) 社会人チーム
2 一人等らしの高齢者の事に が 技術に言ったり、金箔した リする	ま 一人暮らしの高的者を支援 第 する制度	の 新華なインケーや シャ 敬敬 た の何彼を抱いなら ナポート	ま人ホームにロボットを等 入する *** ********************************		大学の設立	専門学校をつくる	乗 受 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			地域・歴史		継	伝統工芸品などの体験活動 を行い、後継人を探す	本食したくなるようなイス			郷土酒粮 をひろうしたりし	て着名にする	などをど 伝統芸能に異味のある人に 明して、 呼びかける 人を探す		でんを 地域の文化を子孫へとつな 主張物を いでいく	→現体を 365g 月に1回程子弁dyを作る				9			
○字以上は一人等 らしをな るべくしないなどのきまり をつくる	大字 地域に大規模な集合社 宅を作り、一人等らしの高 的件を仕まわせる	健康に年を重ねられるよう な実験一会器が減る。 薬的 化が進んでも医療資源。 的 動力端接	老人ホームをもっと多くの 人が使える広さ、設備にす る		数章	40.米・近米 学校などで産業に興味をも でるような経典をする (島	Medity の名を配けませた。	日本 日本	1年に1回、学校で戦争につ いての投票を行えばよいの ではないか	数争を体験した運動性からの語をしてもらう		育しい仕事を取り入れる	将来子供がつきたいと思う 仕事を能やす 8	カート の 日本 の 前 日 に 向 け が		#817	Total	1	仮様芸能や文化財などをど んなものなのか説明して、 安け継いでくれる人を探す	最少なガの人 ムソトロ語シ スポクタイクソトロ語シ スポクの難か	全国から高いお金で人を 第って、女林・御生芸物を 雑がせる		_		_	ろうさと物格でもっと他の の人から物格してもらう	他県との交流や国わりを権	######################################	(Max 1700/27/17-17/16) (Max 17/17/17/17/17/17/17/17/17/17/17/17/17/1
温味する呼称を決めない	高齢者って働きたいのか、 意内調査	素約者に自宅での仕事をす すめればよいのではないか	解院と老人か一人などを合 特し広くする (1つのとこ A ちに集まることで、人間の A 自計をよっしくる)							26			- 株田					(文 級リを増やす	多を代表する様りを終しく 核める			放送事経がすべての事態に まわっているわけではない	う ので、各家屋につけるこ でつながりも強くなると う			-therefores	70億	東しい場にする 例えば、韓城の人口が9	特別の人の2、3数が現内 に住む ● ● ● 1 1 1 1 2 2 1 2 4 7 3
動ける高齢的を増やす	定年退職をなくす	運動の年齢を引き上げて、 元気な、おじいちゃん、お ばあちゃんは他かせる	画齢者労働 老人ホーム	押縕恒		みなとから観光物までの道 を分かりやすく示す	概先物に行くパスの推をつ くる		ノ(ガス等を活用し、高速 船・フェリーを運転する。 技術関発				Waste Lead		服内スポーツ施設 (ブー ル、サッカー、野球など) を建設し、観光客を着やす	スポーツ	してしながり	20			を装ての交流をふわす ・ イベントを着やし、人々の		て、報経的に参加するよう に呼びかける	現在の財務の見重しをし、	海峡な食用を見つけ出 につい こここここここここここここここここここここここここここここここここここ	すく 最人を着ヤチ (資源をついて かって収入を増加)	- 人一人の気軽への無調を 細かさせるために、学校以	らでも避難が終をする ち以が終をもっと定期的に	指数的に行い、おり部隊も 能なるけんにする 神管になる。 カードンなどが確実におく
移住してもらうためにもっ と程子島のよさを発信する	島に帰って来たくなるような推動や扱りを作る	大学年業後、島に係ってく る	様子島に帰って来て着くことを条件の差や接約 ●●	単やロケットなど、菓子島	の及いところをもっと所 し、人口物加につなげる	自放運転やAIの特別化で 実践以降を行い、文差や人 年末日の転換	自然運転	DISSING	セグウェイ等のパーンナル もアンティ複雑の利用年間 (空組整数)	影響			クとかミスドとか) テともが遊びに行ける施設	00000 243	中学校の体育館、校園など を休日貸し出しのにする。 貸し出してるとこをふやす		一、	報告を			たを報告しかればはいので はないか 細版化を扱ぐために、こち	6	置がでの冷冽の設置	財政	である。 財政の後に当	いて、自然に対かりですく 伝え、市民の意見を聞いて か 超数する	ハゲードマップをもった等		所収集造の課物に変える ● 単 以面に着えて、Dなん場所 などをはおくしておく
2	体験移住をもっといろいろ な種類で行う(例) 異家移 住、進修移住	移仕者が生活しやすいよう に耐をつくる	1世たい人を助がから 凝集	14・定住の呼びかけ	定住	最外の移動をしかすい意味 づくり	もっと音で動いているバスを活用する	ノ(スを増かす (そして値段 をもっと下げる) ●●		100	1		空の客を抜する事業の事業の事業を発	家を作るときにつかう	資金券を装したションガン グセンケーを寄しい結談を たたる	+ 15	- M	さとうきびーエネルギーエー / 公 婦一エネルギー諸宗	市全体の取り組みで、バイ オマス発電に接える体的の マ 神りのカスを集めを寄する	Z 200 (BEETHER)	(人)	際の緊張電源	3 2			になる状のしたにか格当数 用を指数	音から防災ゲッズを支給す。	•	のKY92などを配り X着について意識を高める
移住者が増えるような取り 組み	移住者へ種子島ならではの 面白い特権を与える ●	ひとを集めから呼び込む	移仕者の誘致 (特にサーファー)	様子島のことを他の地域の人にもっともっとアピールして、移住者を着やし、人	*************************************	島内の交通をもっと便利 に。・観光音・戦の増加	ハスの個路を完くする	どんがくスの活動を囲まえ	中級生配はロタクツー年額				解析で貸し出す 植物が他将化しないよう変	別的にテェックをし、修理 も行う	持ち手の1/な1/空音客に絵 をかき、観光地化			最業の要物のエネルギー利 48-7月 (株子可能エネルギー) 48-7月 (株子可能エネルギー)	● バイオマス部科などの研究 部分できるだけ単くし、ごみ オーケン・ロル オーケン・ロード オーケン・ロード オーケー・ロード オーケー・ロード・ロード・ロード・ロード・ロード・ロード・ロード・ロード・ロード・ロー	こみ、背流を用の減少 ● 独	果力素電を着やす ハ 種子島の強い風を利用し す 割も参加・れたいれて 展		リサイクル	終てているものをたくさん 分別してリサイクルする	リサイクル	核・有・ちゅう手類のリ デュース制度をつくる	防災	大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田大田	放置する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
年間で子枝を育てるための 植物金を出す	子付がいる家庭を抵債過する	子どもの多い容易に言から 開物などを送る	子連れ監督権システムの導入(連転整件、全種ヘル パー等)	子供を育てやすい何を仕り 子供達れの移仕者をふやす (自然での遊び、種子島で かっまたいを呼びたよす。	5) 5)	船の運貨化は、所得が高い 人はど他投が高くなる制度 にする		ノ(ス、船など交通の便を推 やす	又進きかんの光楽		空き家を利用して今間地段	を様でる ● ● ● ●	て、空の客を減らす	向けの途にする	宝き家をリフォームして活 用する	4 2	0	株の物をアメンカの第二等 いものではなく、単年可能 エデルイーであるができ 展力・差力を表って発展す を作ったら、新導性を正常	単にもつながらと思う 業力の複貨を電と進の掛か な様々が確		と大阪光泉電子一		フジ袋を優出したマインシンをを含む	各家々で使わなくなったも のを集め、寄生者のフリー	マーケットを聞く ● ● ● ブラステックを抜わずに、 数み物を買う降は、マイボ	トルを持ち歩いて、銀り売 り制度にすると、資源の値 約になる 画画			いろいろなところにごみ捨て場(ごみ精)を設置する
出産するたびに補助金を与 える	子付が多い家族には、たく さんの補助会を与えるよう にする	一人あたり2~3人子ども を走む	能にとってうれしいサービ スをする	出土年出てを出す	出生・子育て	発行機で旅行しやすいよう にする	島内の島内の移動手段を増 やして観光省IP		F 報子島と産児島本土をつな で核を作る ●	島外と	立き家をだれても彼える	きゅうけい外などにする	○ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	まわせるソアー化を図る	移住者に使ってもらう	が田が	G ###	自治体出資のエネルギー会 社談立(自治体新電力)	温泉を掘って、地路発電も かる			000	1368841	ペットボトル雑辻 水とう		2 R	放棄ゴミの回収		いなどを指摘がたして、 数を守る みんなでごみ拾いをする
小口 電子場体活躍を作る (バッジをつけている人に は声かけ目前)	定期的な出金いの場(サロンがな) 利格一出席?	最外からのお見合い、確い でもいいなと思える安定し た生活	島で結婚する人を検助する	>国各股份	出会い	次通 manasaktaresa sert	高速船の利用の少ない便を 新安にする	大隅早島と種子島を様で結ぶ	夏度の様子島、大阪の様子 島など重行後の施(発行 権)を作る	H	田子家 家 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国 国	428849171500000000000000000000000000000000000	図の家を活用した報を作成 ● ● なかをでカフェー様子もの	無形文化財	室を家の有効は用一が国人 向けの密泊施設		1 % 1 % 1	エネルギー自称単の引き上げ	再生エネルギー利用の技術開発を	再生可能エネルギーの使用	を替やしていくコネーの終わ		SRをてっていする	3Rの仮数 (リュース、リ デュース、リヤイクル)	种核可能患品を作り、ゴミ	OMER	17個年17	海岸せいそうの呼びかけを	行う 物質活動にのボランチェア (解析はいそう)

は模造紙の右半分に貼っていく。やはり分野ごとに整理を行い完成させる。

その後、今度は、見学の先生や研究者グループの大人も含めて、各テーブルの提言を見て回り、この提言は良いと思われるものに小さな丸シール(いいねシール)を貼っていく。これは参加の生徒は赤色、大人には青色のシールをそれぞれ3枚配布している。シールが貼られた数なども参考にしながら、生徒たちには提言発表の準備をしてもらい、最後に現市長である矢板俊輔市長に提言発表をグループごとにしてもらった。

提言発表を受けて、矢板市長にはそれぞれコメントをしてもらい、各生徒に 修了証を渡して、記念撮影をして1日のワークショップは終了となった。

これらの提言をすべて、1枚にまとめたものが、図1である。

細かなひとつひとつの提言についてはご紹介できないが、人口、高齢者、交通、空き家・施設、教育、伝統、観光、エネルギー、リサイクルなど、多岐に渡った数多くの提言がなされた。とくに、JAXAの宇宙センターがあることを活かした宇宙開発のコースを高校に新設するや本土との利便性向上などは、今回のワークショップならではの提言だったと思われる。

参加した生徒たちの反応

これまでに開催してきた「未来ワークショップ」においても、参加生徒の事後アンケートの結果は一様に好評であり、今回もアンケートを実施したところ、ワークショップ参加の満足度は極めて高かった。以下、項目ごとに抜粋してご紹介したい²。

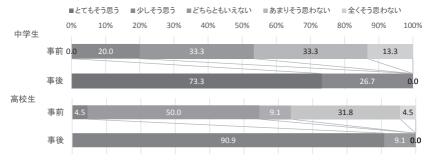
①「知識・技能・(理解)」を問う項目について

まず「西之表市でどのようなことが問題になっているか知っている/理解できた」について。事前アンケートでは、中学生では半数近くが「あまりそう思

² アンケートについては、本研究グループの芝浦工業大学のグループが中心となって行った。2018年11月6日(火)にしのおもて未来ワークショップ報告資料「にしのおもて未来ワークショップ 教育効果測定アンケート分析結果報告」(芝浦工業大学 栗島英明 芝浦工業大学 谷田川ルミ 早稲田大学 中井美和)

表 2 「西之表市でどのようなことが問題になっているか知っているか」





わない」「全くそう思わない」と否定的な回答をしていたのに対して、事後では 否定的な回答はなくなっている。

高校生も、事前アンケートでは肯定的な回答は半数強にとどまっていたが、 事後では9割の生徒が「とてもそう思う」という極めて積極的な回答であった。

②「意欲・関心」を問う項目について

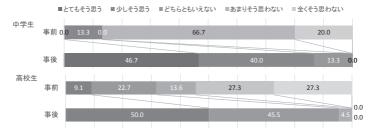
今回のワークショップでは、純粋な公募の方式ではなく、種子島中学、種子島高校(ともに市内唯一の中学・高校)の先生に参加希望生徒の取りまとめをお願いしており、ワークショップ以前より、地域の問題への関心は高かったものと思われる。

「西之表市で起こっている問題」について、「知りたい/もっと知りたい」、「調べたことがある/もっと調べてみたい」という観点からの回答において、事前アンケートの時点で「知りたいと思う」に対して「とてもそう思う」と回答した割合は中学生でも半数近く、高校生では約6割となっている(表3)。一方残念ながら、実際に「調べたことがある」という問いに対して積極的な回答(「とてもそう思う」「少しそう思う」)をしている生徒は少なく、中学生では1割強、高校生でも3割程度にとどまっていた。

事後アンケートでは、「もっと知りたい」、「もっと調べてみたい」という意欲

表 3

西之表市で起こっている問題について調べたことがある/もっと調べてみたいと思う【意欲・関心】



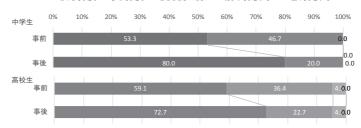
西之表市で起こっている問題について知りたいと思う/もっと知りたいと思う【意欲・関心】



表 4

西之表市や種子島の一員として地域に役立つことをしたいと思っている【意欲・関心、主権者】

■とてもそう思う ■少しそう思う ■どちらともいえない ■あまりそう思わない ■全くそう思わない



未来の西之表市や種子島を自分たちの手で良くしていきたいと思う【意欲・関心、主権者】



が高まっており、ワークショップの効果があったものとみることができるであ ろう。

同様に、これまでの未来ワークショップでもみることができた、主権者教育としての効果についても (**表 4**)、もともと参加した生徒の意識が高かったこともあるが、事前と事後で比較した場合、「とてもそう思う」の割合が、中高ともに増えていることがうかがえる。

以上のように、ワークショップ参加に対する満足度の高さから、全般的にワークショップの教育効果の高さを伺うことができたが、一方で、このような高い評価はワークショップ参加の満足度から生まれたもので、一時的な「高評価」につながった可能性も否定できない。そのため、研究グループでは、追跡調査を半年後の2019年2月に実施した。その結果も踏まえながら、種子島中学、高校の先生方ともご相談の上、学校カリキュラムへの組み込みなども検討を進めているところである。

(みやざき ふみひこ)